

2022年8月6日

報道関係者各位
プレスリリース

公益財団法人 農村更生協会
八ヶ岳中央農業実践大学校

体験学習：アニマルウェルフェア・ワークショップを新設します！

アニマルウェルフェア（AW）を日本に初めて紹介した佐藤衆介（東北大学名誉教授）が、2019年度から本大学校畜産部長として、放牧による養鶏・養豚・酪農を設計・運用し、本年8月からそれを活用したAWフレンドリーワークショップを日本で初めて開設します。

ワークショップ名：AWフレンドリーワークショップ

「AWフレンドリー」は、八ヶ岳中央農業実践大学校生産の豚肉のトレードマークです。AWはAnimal Welfareの頭字語で、日本語に訳すと動物福祉です。AWとは「動物の心と体の健康」であり、AWフレンドリーとは「動物の心と体の健康に親和性のある、すなわち配慮した」の意味として使用しています。

受入期間：2022年度 8月～10月（放牧期間）の第二、第四土曜日

体験学習時間：9：00～12：00（受付時間を含む）

コース：基礎コース（AW知識がほとんどない方）及び

専門コース（AW教育に携わる可能性のある方）のいずれかを選択

体験学習内容：

- ① 「AWフレンドリー」にするには、何をすべきか？（教室ワークショップ：1時間）
- ② 生産現場を見てのAW改善ポイント
（放牧豚、放牧養鶏、放牧羊、放牧酪農の現場ワークショップ：1時間30分）

受入数：1団体/日、5～20名/団体（個人でのご希望の場合は、相談に応じます。）

指導教員：畜産部長佐藤衆介、放牧担当職員遠藤萌果、研修部職員

以下のHPに、お申し込みの手順等が記載されています。

2022年度農林体験学習申込書に必要事項を記載の上、FAXにてお申し込みください（先着順）。

URL：<https://www.nourintaiken.org/>



農林体験学習サイトへようこそ！

HOME	農林体験学習について	実施要項	農林体験学習参加規約	体験学習コース	お申込み
ダウンロード	実施までの流れ	予約状況	お問い合わせ	アクセス	プライバシーポリシー

東京五輪以降、急激に高まった AW への配慮を正しく理解し、実践に結び付ける！

東京五輪での畜産物調達基準に AW への配慮が加わったこと、そして OIE（国際獣疫事務局改め世界動物保健機関）の「AW と産卵養鶏システム規約」の検討を契機に、企業、消費者、市民、さらには政府内でも AW への関心が高まってきています。

味の素、明治ホールディングス、日本ハムは、2021 年に AW ポリシーを公表し、2022 年には、さらにプリマハム、日清食品、伊藤ハム、ニチレイ、キューピー、雪印メグミルク、ヤクルトなどが次々に AW への配慮を公表してきています。

一方、一般消費者を会員とする生協においても AW への配慮を打ち出し、動物擁護の市民団体は、これまでの伴侶動物中心の活動から、畜産動物へも活動の幅を広げてきています。

また、4 月 7 日の参議院経済産業委員会では、萩生田経済産業大臣は、農林水産物食品の輸出拡大を通じた経済効果をもたらす可能性のあるものとして、AW の推進も我が国が取り組むべき重要な課題の一つとしました。

すなわち、AW 教育の充実は、企業、消費者、市民、そして行政からも、今大いに期待されているところと言えます。しかし、AW に関する理論と養鶏、養豚、酪農の実践を統一的に学べる場所は、国内では本大学校において他には見当たらず、本大学校への期待が高まってきております。

本ワークショップに参加することで、AW に関する正しい理解が進み、各立場における活動の推進に繋がります。生産者にとっては生産効率向上、消費者にとっては健康な動物からの生産物供給、市民にとっては動物への配慮を通じた倫理対象範囲の拡大、行政にとっては貿易における品質保証等です。

指導教員

佐藤衆介



東北大学大学院農学研究科博士課程修了（農学博士）後、宮崎大学、英国 Edinburgh 大学、独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構畜産草地研究所、東北大学大学院、帝京科学大学で研究・教育に携わる。

現在：東北大学名誉教授、公益財団法人農村更生協会 八ヶ岳中央農業実践大学校畜産部長

主な著書：アニマルウェルフェア（単著 2005）、人と動物の関係を考える（共著 2018）、動物行動図説（共編著 2011）、動物福祉の科学（共監訳 2017）など多数。

遠藤萌果



信州大学大学院総合理工学研究科前期課程修了後、信州大学農学部にて「アニマルウェルフェア評価のための行動データの収集と解析業務」に従事。現在：公益財団法人農村更生協会 八ヶ岳中央農業実践大学校畜産部 放牧チーム担当；大型特殊免許、車両系建設機械運転技能講習

公益財団法人農村更生協会 八ヶ岳中央農業実践大学校について

昭和13年、疲弊した農村経済の復興にあたる全国的指導者の養成を目的に本校は設立されました。卒業生はおよそ3,500名で、国内・国外において農業経営者や農村の指導者としてはもちろんのこと、農業団体や政官界などでも活躍しています。

本校では、広大な農場をキャンパスにして、高原野菜やスイートコーンなどの畑作、シクラメンや宿根草などの花卉、乳牛130頭による酪農、採卵鶏7,000羽の養鶏など、耕畜両面にわたる農業を幅広く生産現場での実践をとおして学べるようになっていきます。また、生乳の他、ヨーグルト、アイスクリーム、チーズなどの乳製品加工にも取り組んでいます。生産された野菜、花、卵、乳製品は校内に設置された直売所やオンラインショップで販売されています。このように本校では、一次産業としての農業のみならず、二次・三次も加えた農業の六次産業化を実践体験を通じて学ぶことができ、これが本校の大きな特徴となっています。

所在地：〒391-0112 長野県諏訪郡原村 17217-118

校長：大杉 立

沿革：昭和9年 農村更生協会設立、昭和13年 八ヶ岳中央修練農場開場、昭和48年 八ヶ岳中央農業実践大学校と改称し、現在に至る。

事業内容：野菜、花卉、酪農、養鶏の専攻4部門において、2年制（定員30名）の専修科と、1年（定員10名）または短期7か月の研究科の指導を行っている。

ホームページ：<https://yatsunou.jp/>

本件に関する問合せ先

佐藤衆介

E-mail：s-satoh@yatsunou.jp

TEL：080-1269-1753（本校体験学習事務局 代表番号）

